

関 由紀夫

帯広市視察 帯広の森はぐくむの取り組みについて 平成 28 年 6 月 30 日

(帯広の森)

帯広の森は、都市部への人口や産業の過度な集中が進むことによる宅地の郊外部への無秩序な延伸（スプロール化）を防ぎ、都市部と農村部を区分し双方の交流の場としての役割を果たすことが期待されています。また、都市林のもつ公害抑制、都市災害の防止、微気象・環境の緩和、生物生息環境の保全などの機能も期待されています。

さらに、緑による安らぎ、余暇利用のための空間確保なども重視しており、快適な都市環境を確保することを目的としています。

(帯広の森構想)

昭和 44 年に吉村市長がオーストリアを訪問し、そこで『ウィーンの森』に出会ったことを契機として、「帯広の森」構想が具体化されました。広大なウィーンの森と、それに共生するウィーン市民に大きな感銘を受けた吉村市長は、昭和 45 年に帯広市第 2 期総合計画策定審議会を発足させ、その場で「帯広の森」構想を発表しました。

そして、昭和 46 年 4 月に策定された第 2 期帯広市総合計画において、「帯広の森」はまちづくりの主要な施策として明確に決定されました。その後、市議会での激しい論争、市民の気運の高まりなどを経て、事業がスタートしました。

人口規模からいっても、矢板は帯広の比較にはならないが、矢板における自然財産、例えば日光国立公園の一角をなす、八方ヶ原の今後の在り方については

- 八方ヶ原の、山の駅たかはらを拠点に観光開発を行う。
- 塩原・鬼怒川方面への観光拠点としての整備。等

参考になる点が多々あるように感じました。

街と自然の共生の未来形を見させてもらった様に感じました。

はぐくむにおいては年間を通して、様々なイベントが開催され盛況だということでした。

八方ヶ原山の駅たかはらにおいても、イベントは開催されているのだと思いますが、今以上に八方ヶ原の魅力の発信をどのように行っていくのかは、今後の課題のように感じました。

広尾サンタランドはノルウェー・オスロ市から日本では唯一のサンタランドとして認定されたもので、その基本理念は「愛と平和、感謝と奉仕」。

「サンタの世界が持つ愛、夢、ロマン、憧れ、優しさがあり、いつまでも誇らしさや思い出が育つ町」という意味であり、本来その具体的なイメージはそれぞれの時代、人、地域によって育てられます。

広尾サンタランドは、いわば本家であるノルウェーのイメージを尊重しながらも、長い時間をかけて「広尾町らしい魅力、夢、ロマンのある町」、「幼児から高齢者まで幅広い層が参加し、愛や優しさ、誇りや思い出が育つ町」を実現し、育てられていくことが最も重要と考えます。

今後は、「サンタランド」をまちづくりのC I（コミュニティ・アイデンティティ＝地域らしさ）の目標とし、町民はもとより多くの人々の参加を得て、まちづくりや地域の活性化へ着実につなげて行きます。

というのがサンタランドの考えとの事でした。

人口は1万人にも達しない町でありながら、サンタランドのネームバリューによって全国に名が知られていることには、大変興味深く感じた。

矢板市においても、広尾町の様な決定機を発掘し、全面にアピールしたまちおこしの必要性を感じた。

サンタランドにおいては、市民団体や活動団体等が魅力ある地にするために、様々な活動を行っています。矢板市においても、市民参加のイベント等の発掘が望まれるところだと感じました。

北広島市は、石狩平野のほぼ中央に位置し、道都札幌市に隣接しながらも、自然に恵まれ、豊かな都市機能と潤いに満ちたまちです。

本市は、明治10年に札幌農学校（現在の北海道大学）初代教頭であったクラーク博士がアメリカに帰国するとき、学生との別れの際に「青年よ大志をいだけ」の言葉を残した地であり、また、明治6年に中山久蔵翁が「米づくり」に成功した北海道寒地稲作発祥の地でもあります。

明治17年には、広島県人の入植により本格的な開拓が始まって以来、明治27年に広島村、昭和43年に広島町、平成8年の市制施行で北広島市へと着実に都市への発展を続けています。

との説明を頂きました。

スマートインターチェンジは、矢板市においても矢板北PAに設置が予定されていることから、興味深く視察をさせていただきました。

平成28年5月27日付 国土交通省ホームページ掲載の
スマートインターチェンジの新規事業化、準備段階調査の箇所を決定
～高速道路の有効利用や地域経済の活性化に向けて～ を一通り目を通して頂きました。

輪厚スマートインターチェンジは、大曲工業団地、輪厚工業団地に近接していることから大きな経済効果が得られると感じました。又、北広島市街地へも近いことから、街の活性化の大きな力にもなり得ると感じました。

矢板市においては、矢板北PAスマートインターチェンジが開通すれば、泉地区の発展につながるのではないかと感じました。